

事業名	大項目 (事業協賛)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等 (地域の状況等)	受益者
ダム事業	費用便益分析				
	安全・安心	○洪水被害の軽減	○費用便益比	○B/C = 1.4 (年便益B = 4,727百万円, 年費用C = 453百万円) (想定被害額は、治水経済調査要綱に基づき、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定)	想定氾濫区域内住民
	定性的評価等				
	安全・安心	○洪水被害の軽減	○想定氾濫区域面積 ○想定氾濫区域内人口	○約1030ha ○人口 約6万人、家屋数 約2万戸 ○土地利用(上流:市街化調整区域、中~下流:近隣商業地域、住居地域)	想定氾濫区域内住民 (6万人、2万戸)
			○想定氾濫区域内の重要な施設	○主要施設:JR阪和線、南海本線、和泉市役所、泉大津市役所、その他官公庁19、小中学校10、病院4など ○災害弱者施設:児童福祉施設、老人福祉施設、幼稚園、医療提供施設 各1 ○ライフライン等	主要施設利用者 (輸送機関は不特定多数、 その他の施設は地域の住民等)
		○渇水時の用水の確保	○区域内灌漑農地面積 ○渇水時における安定流量の確保	○約25ha、取水堰7か所 ○既得灌漑用水の安定取水に必要な流量をダムから補給する。	ダム~神田橋の 農業従事者
		○防災機能		○山林火災時、震災時等の消防用水確保	林業従事者
	活力	○地域の活性化・ダム周辺整備・親水空間の確保		○ダム建設に伴う付替道路の整備やダム周辺整備により、施福寺、市立青少年の家、榎尾山グリーンランドなどの既存施設を有機的に連携し、地域全体の活性化を図る。 ○ダムにより一定面積をもった水面が出現することにより、都市近郊の貴重な水と緑のオープンスペースとして、様々な利用が可能になると考えられる。	周辺住民、観光客等
	快適性 (生活環境)	○景観		○榎尾川沿いの狭い谷に迫る山々という現在の景観に、貯水池、付替道路、橋梁という新たな景観要素が加わる。 ↓ ・ダム本体については、周辺環境に調和した景観設計を行う。 ・ダムサイト下流については、年間を通じて安定した水量を補給することにより、良好な河川景観を確保する。	周辺住民、観光客等
		○親水空間の確保		○ダムにより出現する水面とその周辺の山林は、水と緑のオープンスペースとして、様々な利用が可能になると考えられる。	
環境 (自然環境)	○生態系への影響		○ダムにより、常時満水位以下で約5ha、本体掘削の法面で約2ha、付替道路で約4haの合計約11haの自然が改変される。 ○貯水池の形成により、比較的大規模な明域や水面が出現するため、周辺地域の生物の生息環境が変化するほか、陸生動物の生活圏が分断されるなどの影響が考えられる。 ○一方、水生生物については、貯水池の形成で流水域から止水域へと生息環境が変化する。 ○貯水池下流域では、ダムによる安定した流量が供給される。 ↓ ○ダム工事で改変される部分については、影響を最小限にとどめるよう工法に工夫を凝らすほか、ダム周辺の植物の種子を保存し利用するなど、自然環境の再生を図る。 ○ダムサイト下流においては、動植物の保護に必要な水深(5cm以上)を確保するほか、環境基準を満足させる(BOD 2ppm以下)ための流量をダムから補給する。	ダム~神田橋の 農業従事者 周辺住民、観光客等	
	○河川流況への影響	○ダムによる正常流量の確保	○動植物の保護、水質改善・保全、景観、既得灌漑用水の安定取水に必要な流量をダムから補給する。具体的には、神田橋(利水基準点)地点において 0.189 m ³ /s(しるかき期(6/1~6/10)) 0.171 m ³ /s(普通期(6/11~9/20)) 0.140 m ³ /s(非かんがい期(9/21~5/31)) を確保する。		
その他	○(歴史、文化)		○施福寺への参道がダムにより水没する。 ○西国4番札所である施福寺へのアクセスが向上することにより、1500年の歴史をもつ同寺の文化に触れる機会が増えるなど、ダムへの来訪者が周辺の歴史環境にゆったりとふれあう場の提供が可能となる。	周辺住民、観光客等	